

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）  
分担研究報告書

地域がん診療連携拠点病院における化学療法の標準化

研究分担者 蒲生真紀夫 大崎市民病院 がんセンター長

研究要旨

二次医療圏ごとに地域がん診療連携拠点病院の整備が進められているが、がん薬物療法の専門性を持つ医療者は不足しており、患者に最適の治療を選択し、継続するための仕組みが必要である。本研究では、宮城県北の広域医療圏で、レジメンの標準化に加え、地域の医療機関から、地域がん診療連携拠点病院の専門医への症例相談を行う仕組みを作り、少数の症例で検討した。地域固有の事情に配慮しながら、診療方針立案の相談体制を構築することは有効であると考えられた。

A. 研究目的

我が国のがん医療において、がん薬物療法の標準化・均てん化の推進が課題であり、二次医療圏ごとに地域がん診療連携拠点病院の整備が進められている。しかし、急速に進歩する治療内容に比して、知識や技術を持つ医師、医療者は現状では不足しており、個々の患者に最適の治療を選択し、継続するための効率のよい仕組み作りが急がれる。昨年度の調査によって概要を示した、宮城県北の広域医療圏をモデルに、がん薬物療法連携の整備要因をさらに明らかにする。

B. 研究方法

宮城県北で地域がん診療連携拠点病院のある大崎医療圏と、その他の地域の中核的病院が存在する栗原医療圏、登米医療圏におけるがん薬物療法施行の現況は 2011 年度の本研究で概要を示した。標準レジメンの共有、治療方針立案共有化が課題であった。

本年度は消化器がんを中心にがん拠点病院医大の 2 病院における標準レジメンの整備状況を聞き取り調査した。また、がん診療連携拠点病院である大崎市民病院に専用の連絡相談窓口（連携室がん薬物療法専門医）をもうけ、利用ニーズを実態調査した。

C. 研究結果

標準レジメンの整備状況の調査では、大崎市民病院（がん診療連携拠点病院）を基準とした場合、  
1）栗原医療圏：中核的公立病院 B（一般 260 床）では、大腸がん（85%）、胃がん（70%）であり  
2）登米医療圏：中核的公立病院 C（一般 228 床）では、大腸がん（80%）、胃がん（70%）であった。レジメンの整備はある程度進んでいると考えられた。一方では、副作用管理の困難さから、初回治療から大幅な減量投与を行っているケースも少なくない結果であった。また、昨年度の訪問調査で、レジメンの選択、一次療法、二次療法の移行などに際しての診療方針立案に関して、専門医の判断を参考にしたいとの意見が出された。

そこで、本年度から試験的に大崎市民病院・連携室に窓口を設け、他の 2 病院からの、診療方針立案に関する相談をがん薬物専門医に直接コンサルトする仕組みを導入した。

本年度にそのシステムで相談を受けた件数は、大腸がん 8 件、胃がん 5 件、その他（稀少がん）4 件であった。計 17 件のうち紹介受診に至った症例は 9 件であり、8 件は医療者同士の方針相談で方針を決定し得た。

## D. 考察

地方では、がん専門医療者の不足と、専門的医療施設への患者アクセスの困難さから、地域がん診療拠点病院以外の地域の急性期医療機関においてもがん薬物療法施行の体制が作られている。一方で、治療選択や副作用管理において専門医療者の助言を必要としている実態も明らかになった。がん薬物療法専門医を配置している地域がん診療連携拠点病院において、医療者間の相談窓口を創設し、診療方針を決定する方法は少数例での検討ではあるが有効であると考えられた。助言をする側の専門医療者のサポートも必要であるが、今後、体制を整えていく事が期待される。

## E. 結論

二次から三次の広域地域の中核的病院間でネットワークを質の良いがん薬物療法を継続的に施行するためには、レジメンの共有化のみならず、地域固有の事情に配慮しながら、診療方針立案の相談体制などを整えていくことが有効と考えられる。

### 研究発表

#### 1. 論文発表

社、p100-107, 2012.4.5 刊

- 1) Satoshi Tanaka<sup>1</sup>, Naoto Suzuki, Akira Mimura, Maho Kurosawa, Yuriko Murai, Daisuke Saigusa, Makio Gamoh, Masuo Sato, Yoshihisa Tomioka<sup>1</sup> : Serum Chlorine Level as a Possible Predictive Factor for Oxaliplatin-Induced Peripheral Neuropathy, *Pharmacology & Pharmacy*, 2012, Vol.3, No.1, p44-51
- 2) Shunsuke Kato, Hideki Ando, Makio Gamoh, Takuhiro Yamaguchi, Yasuko Murakawa, Hideki Shimodaira, Shin Takahashi, Takahiro Mori<sup>6</sup>, Hisatsugu Ohori, Shun-ichi Maeda, Takao Suzuki, Satoshi Kato, Shoko Akiyama, Yuka Sasaki, Takashi, Yoshioka and Chikashi Ishioka  
On behalf of Tohoku Clinical Oncology

Research and Education (T-CORE): Safety verification trials of mFOLFIRI and sequential IRIS + bevacizumab as first- or second-line therapies for metastatic colorectal cancer in Japanese patients, 2012;83:101–107, *Oncology*

- 3) 蒲生真紀夫、(編者：石岡千加史)：がん薬物療法エキスパートマニュアル各論：肝がん、総合医学

#### 2. 学会発表

(国際学会)

- 1) Kazuhiro Nishikawa, Keisho Chin, Atsushi Nashimoto, Akira Miki, Hiroto Miwa, Akira Tsuburaya, Tamon Miyanaga, Takuo Hara, Ryoji Fukushima, Makio Gamoh, Norimasa Fukushima, Takeshi Sano, Yasuhiro Kodera, Yoshihiro Kakeji, Satoshi Morita, Junichi Sakamoto, Shigetoyo Saji, Kazuhiro Yoshida; Department of Surgery, Osaka General Medical Center, Osaka, Japan; Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan; Niigata Cancer Center Hospital, Niigata, Japan; Department of Surgery, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan; Division of Upper Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Hyogo College of Medicine, Nishinomiya, Japan; Department of Gastrointestinal Surgery, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan; Department of Surgery, Fukui Prefectural Hospital, Fukui, Japan; Kouseiren Takaoka Hospital, Takaoka, Japan; Teikyo University, Tokyo, Japan; Osaki Citizen Hospital, Osaki, Japan; Yamagata Prefectural Central Hospital, Yamagata, Japan; Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan;

Department of Gastrointestinal Surgery,  
Kobe University, Kobe, Japan; Department  
of Biostatistics and Epidemiology,

Yokohama City University Medical Center,  
Yokohama, Japan; Japanese Foundation for  
Multidisciplinary Treatment of Cancer, Tokyo,  
Japan; Department of Surgical Oncology, Gifu  
University School of Medicine, Gifu, Japan:  
Result of HER2 status in Japanese metastatic  
gastric cancer-Pro prospective cohort study  
(JFMC44-1101), 2013/1/24, Moscone West  
Building, San Francisco.

(国内学会)

1) 高橋 義和, 大堀 久詔, 坂本 康寛, 佐藤 悠  
子, 蒲生真紀夫: 地域がん診療連携拠点病院にお  
ける包括的がん治療と腫瘍内科の役割 診療録  
の後方視的解析から 2012/4/14, みやこメッ  
セ(京都) 第109回日本内科学会講演会

2) 伊関雅裕, 水間正道, 林洋毅, 中川 圭, 岡田  
恭穂, 森川孝則, 大塚英郎, 深瀬耕二, 吉田 寛,  
元井冬彦, 内藤 剛, 片寄友, 坂本 康寛, 蒲生真  
紀夫, 海野 倫明: 化学療法が著効し根治切除を  
施行し得た高度局所進行胆嚢癌の1例, 第48回  
日本胆道学会学術集会, 2012/9/20, 京王プラザ  
ホテル

3) 小峰啓吾, 大堀久詔, 高橋義和, 蒲生真紀夫:  
大崎市民病院における高齢者大腸癌に対する化  
学療法に関する検討 2012/7/6, ホテル日航東京,  
第77回大腸癌研究会

4) 大堀久詔, 高橋義和, 小峰啓吾, 蒲生真紀夫:  
進行再発大腸癌に対する薬物療法の後方視的検  
討 - 年齢・背景因子による個別化に向けて,  
2012.10.25, パシフィコ横浜, 第50回日本癌治  
療学会

5) 二井谷友公, 加藤俊介, 蒲生真紀夫, 村川康  
子, 酒寄真人, 磯部秀樹, 下平秀樹, 秋山聖子,  
吉田こずえ, 吉岡孝志, 石岡千加史: T-CORE0901  
Japan-Modified CONcept trial における 有効性

ならびに安全性を検討する第 相臨床試験  
(J-M-CONcept trial phase study)の中間解析報  
告, 2012.10.25, パシフィコ横浜, 第50回日本  
癌治療学会

6) 吉岡孝志, 佐藤淳也, 伊藤薫樹, 加藤俊介,  
柴田浩行, 西條康夫, 蒲生真紀夫, 石田卓, 石  
岡千加史: 東北地方広域をカバーする東北がんネ  
ットワーク・ウェブ Tumor board の試み, 2012.10.  
25, パシフィコ横浜, 第50回日本癌治療学会

7) 二井谷友公, 加藤俊介, 蒲生真紀夫, 村川康  
子, 酒寄真人, 磯部秀樹, 下平秀樹, 秋山聖子,  
吉田こずえ, 吉岡孝志, 石岡千加史: T-CORE0901  
Japan-Modified CONcept trial における 有効性  
ならびに安全性を検討する第 相臨床試験  
(J-M-CONcept trial phase study)の中間解析報  
告, 2012.10.25, パシフィコ横浜, 第50回日本  
癌治療学会

8) 加藤俊介, 石田卓, 伊藤薫樹, 蒲生真紀夫,  
西條康夫, 佐藤淳也, 柴田浩行, 吉岡孝志, 石  
岡千加史: 東北地方中核病院を対象とした化学療  
法に関する現状調査, 2012.10.25, パシフィコ  
横浜, 第50回日本癌治療学会

F. 知的財産権の出願・登録状況

G. 特許取得

なし

H. 実用新案登録

なし

I. その他

なし